ドリーム×タイムにトラヴェル

明田 合志

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ドリーム×タイムにトラヴェル

【Nコード】

N4992L

【作者名】

明田 合志

【あらすじ】

ある日見た夢。

それはもう何回も見た夢だった!?

時と夢のリンクを繋ぐ(無意識に)少年。彼を奪う者、護る者。それぞれの、闘い。

マイドリーム

避ける!!

全身に、命令する。しかし、身体は鉛のように重く、全く動かない。

くそっ、っわあああ………!!

「……助。嘉助!!」

「くっ、ここは!?!」

俺はどうなったんだ!?!

「は? 教室だけだ」

「ふえ?」

瞬間、周りから笑いが上がった。

寝てたのか? だとしたら、あれは夢?

「樟葉、居眠りで夢見てたのかよー」

「やっぱり、お前天才！」

「なっ、皆違っつて、俺はホントにさっきまで」

「さっきまでどうしてたんだよ？」

「え？ えーと……闘ってた」

しまった、と思った時には既に、さっきより一際大きな笑いが上がっていた。

「……樟葉は罰として、放課後図書室に来い」

「……はい」

夢。

担任であり、英語教諭である、てんもとゆうみ天本結実先生に睨まれ、俺は、徐々に冷静さを取り戻した。

そっだ、夢だよ。あんなことが起こるわけがない。

でも、やっぱりちょっと残念だな……

「どうした？ 不満か？」

「いや、それは勿論ですが……まあ、いろいろと」

てゆうか、居眠りの代償としては、罰が大きくないですか？

うん、いいよ。樟葉なら。

「夢だったのか……」

「まだ、言ってるの？ よっぽどいい夢だったんだ」
ホント、いい夢だったよ。

俺は、樟葉^{くすはかすけ}嘉助。未だに、5時間前の夢に未練たらたら、悲しい高校生だ。

「なあ、嘉助。どんな夢だったんだ？」

さつきから、俺と話しているのは、財紘^{たからこうへい}平。学業優秀で、女子にもモテるが、それを鼻にかける様子もない。誰とでも仲良くできるし、皆から慕われてもいる。自信を持って自慢できる俺の親友だ。

今、俺と財は図書室へ向かっている。俺は例の罰で、財は本を返すにいくらしい。

「いや、なんか後半はいろいろ大変だったんだけどさ。前半はホントいい夢だったよ」

「夢の細部まで憶えてるなんて……一体何があったんだよ？」

「やっぱり気になる？」

夢の中の話でも、あれを言うのはちよつと恥ずかしいな……

「質問してんのはこっちだつっの。夢は深層心理を映し出す鏡だからな。気になるに決まってるだろ？ つーかだから質問したんだし」

「くっ……深層心理だつて？ 余計恥ずかしいぜ……」

「さつさと言えよ。もったいぶるな」

財が、微笑しながら催促してくる。

まあ、でも財なら誰にも言わないだろうし、話してみるか。

「俺、夢の中で新城に告白して、オーケー貰った。夢の中だけど」

「マジ？ 良かったな！ 夢の中だけど」

新城伊月。しんじつよつじつき俺の幼馴染みにして、昔から憧れの人だ。因みに、それを知っているのは財だけで、俺はこの思いを皆に知られないように努めている。『恋愛感情は内に深く秘めること』が俺のモットーだ。

「まあ、所詮夢の中なんだけどな。俺そんな度胸ないし……」

「そうだよな。リアルの嘉助はヘタレだからな」

「おい！！そこは慰めるよ！！」

「事実なんだからしょうがないよ。でもお前そついやあの時、闘っ

てたとか言ってなかった？ あれは？」

瞬間、あの恐怖が体に蘇った。

出来れば言いたくない。言葉に出すと、何故かあの夢をまた見てしまいそうな気がする。

「ああ、あれはさっき後半は大変だったって言ってただろ？ それのことだよ……お、図書室着いたな」

丁度いいタイミングで図書室に着いた。これで、違和感なくこの話を切ることができる。

ほっと息を吐いて、俺はドアに手を掛けた。

刹那。

「なっ!？」

目に飛び込んできたのは、まるで墨を撒いたような漆黒の世界。
さうに。

「し、新城……?」

血に染まった新城がいた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4992/>

ドリーム×タイムにトラヴェル

2010年10月9日02時01分発行